



# わくわく・ドキン!

# 2・3・2 No13 池内幼稚園

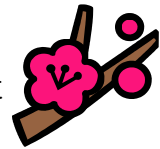
## 卒園式・修了式に向けて!

令和元年度も残すところ1か月となりました。今年は記録的な暖冬で、余りの暖かさに花も開花の時期を間違えて早く咲いてしまう程でした。



子どもたちは、この1年、心身ともに大きく成長しました。豊かな自然に恵まれた園を取り巻く環境の中、池内川で川遊びを楽しんだり、希望が丘に登って木の実を見つけたり、木の家を作ったりして思う存分遊びました。私自身も、子どもの頃の川遊びや山登りの体験は、今も大切な「宝物」として、心の引き出しに数多くしまっています。また、子どもたちは、広い園庭? (人口密度が高いので狭いですが) で、所狭しと動き回って遊びました。時には、玩具の取り合いで喧嘩になったりすることもありましたが、**SST**を通して学んだ**譲り合いの心**で、「貸して!」「いいよ!」と互いに声を掛け合い問題を解決する力を育んできました。

卒園式(20日)・修了式(24日)に向けて、教職員一同、ラストスパートをしていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。



## 節分(豆まき)

2月3日(月)に予定していた節分豆まきはインフルエンザの大流行で、18日に延期して行いました。当日は、各クラスで豆や紙玉を用意して、今か今かと鬼を待ち構えていました。そこへ怖い**赤鬼**と**青鬼**が登場。子ども達は鬼の形相に驚き、「**こわい!**」「**助けて!**」と泣き叫び、逃げ回ったり、助けを求めて先生の後に隠れたりしました。

中には、こわごとと豆や紙玉を投げつけたりする子もいました。怖さの中にも「**わくわくドキドキ!**」する**楽しい体験**ができました。「**怖いもの見たさ!**」で、来年も怖い? 赤鬼さん青鬼さんが登場することを願っています!



## わくわくランド・ドレミファランドの参観!

わくわくランドは、講師の梅田先生に小学校の体育(マット運動や鉄棒等)を見据えて、懇切丁寧に教えていただいています。毎回、サーキット運動等を通して、何よりも「**楽しくわくわく**」しながら運動し、自然に運動能力も高まっています。



ドレミファランドは、講師の幡井先生に歌う時の姿勢や声の出し方、鍵盤ハーモニカやカスタネットや太鼓の叩き方等を教えていただいています。運動会前には、年長組は池内小学校の運動場で練習します。子ども達は、心地よい緊張感を持って、「**音を楽しんで**」活動しています。

外部講師を招いての活動は、私たち教職員にとっても、専門的な知識や技能を学ぶ良い研修の機会となっています。

## 3月の主な行事予定

3月

- 3(火) **自主登園(～13)** \* 感染予防の為
- 18(水) 給食終了
- 19(木) 午前保育(卒園式準備) 早朝あり・**延長なし**
- 20(金) **卒園式(年長のみ参加)**
- 23(月) 年中以下通常保育 **早朝・延長あり**
- 24(火) **修了式(午前保育)** **早朝・延長あり**
- 25(水) 預かり保育(～4/9)



4月

- 10(金) **始業式** (入園式準備) 早朝あり・**延長なし**



**新型コロナウイルスへの対策で予定を変更する場合があります!**

## 心とわくわくコーナー

☆先月は、新型コロナウイルスが発生し、中国を中心に猛威を振るい各国にも感染が広がる等、世界中が脅威の渦に巻き込まれました。グローバル化が進み世界が一つに繋がるなど、良い面も多々ある反面、悪影響を受けるリスクも高まっています。このことから**自国(自分)ファースト**では成り立たないことを痛感しました。また、原発事故と同じように風評被害も広がっています。被害にあっても一番苦しんでおられる人に、さらに追い打ちをかけるような言動は慎むべきだと感じました。

☆先月初旬に、地域の方から、伊佐津川でサケを見つけて写真に撮ったのでメールで送ります! とのお電話をいただきました。サケは、故郷の川の**匂い**を覚えていて、産卵のために産まれ故郷に帰ってくる習性があります。園でサケの飼育を始めたのは2年前で、ひよこことしたら、園で放流したサケかも? と思いました。故郷を忘れないで帰って来てくれたサケに感謝の気持ちで沸いてきました。大海の厳しい生存競争を生き抜き、来年も大きく成長したサケに出会えることを楽しみにしています。

☆阪神淡路大震災から二十五年、東日本大震災から九年が経ち、震災の記憶が忘れ去られていくことが懸念されています。**心の傷を癒すという事** (NHK土曜ドラマ)で、多くの被災者の声に耳を傾け、心の痛みに共感し、寄り添い続けた安克昌氏(精神科医)の姿に感銘を受けました。安克昌氏は、志半ばに癌により三十九歳の若さで生涯を閉じられましたが、医学的な治療だけでなく**対話**によって患者や家族を支援する交流の場**かん哲学外来**が、今、注目を集めています。その姿勢は、**心を込めて相手に寄り添う。意識を集中して相手の話をじっくり聴き、一緒に使命や希望を見出していく**ことです。その逆は**一方的にしゃべったり、自分の思いを押し付けたりする**ことです。ついつい自分の都合や先入観で相手の話を聞きがちですが、この記事を読んで大いに反省させられました。また、言葉に出しにくい、子どもの**心の声**にも、耳を傾けて聞いていきたいと思えます。

